

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.18
平成26年11月27日

「給食残滓0」－好き嫌いの少ない桜っ子

10月29日、11月11日、12日、13日、18日、19日、20日、これらの日は、全校（全学級）の給食の残滓が0（ゼロ）を記録しました。素晴らしい記録です。この記録は、小学校ではなかなか達成できるものではありません。献立を作ってくださった栄養士の若杉先生やその献立をもとにおいしい給食を作ってくださった調理員さんたちも、大喜びをしてみえました。好き嫌いが少なく、食欲旺盛な児童のみなさんや日々給食指導をしてくださっている担任の先生方に感謝したいと思います。



学校での給食指導では、欲求にまかせて、自分の好きな物だけ食べ、嫌いな物は残すという間違った食習慣を改め、栄養のバランスを保ちながら、健康に良い食事の取り方や給食時の清潔、食事環境の整備などに気を配りながら、望ましい食習慣の形成を図ることをねらいとしています。

さらに、個々の食欲や食べる量に応じて、増やしたり、減らしたりの調整をしながら、楽しんで食べられるように配慮しています。そして、給食を通して好ましい人間関係の形成を図ることもねらいとしています。

給食時に、各教室を巡回して回りますが、子ども達の楽しそうな表情や会話を見聞きするのが楽しみの一つとなっています。

ありがとうの伝え合い

A子さん（28歳）は、専門学校を卒業してからメーカーの事務職として働き出したものの、人間関係になやんで数年で退職。その後は実家で両親と一緒に生活しながら、さまざまなアルバイトを転々としていました。

そんなとき、新聞の折り込みチラシの中にあつた、ある菓子店の求人広告が目にとまりました。笑顔で楽しそうに働くスタッフの写真を見て、「ここなら私も続くかもしれない」と思ったのです。

この菓子店には、これまでに勤めた職場とは大きく違う点がありました。それは、毎日の仕事の終わりに、その日一日を振り返って、共に働く仲間から「してもらってうれしかったこと」を思い浮かべ、その相手に対する感謝の気持ちをカードに書き込んで贈り合うという習慣があつたことです。

一日一枚は必ずこのカードを書く決まりですが、新しい職場での人間関係に慣れないAさんは、なかなか書くことができませんでした。そんなある日、Aさんは先輩のK子さん（34歳）からカードを贈られました。「A子さんへ 昨日は家庭の事情で突然お休みをしてしまったけど、フォローしてくれてありがとうございました」

Aさんは、驚きました。Kさんは、仕事に不慣れなAさんに対して、人一倍親切にしてくれている先輩です。Aさん自身に休んでいる先輩のフォローをするというつもりはありませんでしたが、どこかに「先輩がいない分、しつかりしなくちゃ」という意識があつたことは確かでした。Aさんは、先輩のきれいな字を目で追いながら、心がポッと温くなるのを感じました。

その日の帰り、いつになく穏やかな表情でカードに向かうAさんの姿がありました。「K子さん、今日はカードをいただいて、すごくうれしかったです。私は、いつも誰かに『してもらふこと』を期待してばかりで、自分は人に対して何が出来るかなんて、考えたことはありませんでした。先輩に認めてもらって、働くことの楽しさが少し分かつた気がします」

それから3年。この菓子店での仕事を続けたAさんは、今では「お店の顔」として、笑顔で毎日を過ごしています。

桜小学校でも、「いいところみつめ」「桜っ子しぐさみつめ」「いいところみつめたよカード」の取り組みを全校や学級で行っています。このお話のように、友達の「いいところ」や「してもらってうれしかったこと」をみつめ、「ありがとう」という感謝の気持ちとともに伝えていきましょう。そうすれば、皆が幸せな気持ちになることができると思います。